

エムポックスに対する天然痘ワクチンの受容率を国内で初めて報告

エムポックス（旧称：サル痘）は、男性間で性交渉を行う人々に症例が多い病気で、国内の感染者数が徐々に増えています。予防には天然痘ワクチンの使用が承認されています。実際にワクチンを受けたいと思っている人がどれぐらいいるのか、性別や性的指向も考慮した調査を、国内で初めて実施しました。

エムポックス（旧称：サル痘）は、ウイルス感染によって引き起こされる病気です。男性間で性交渉を行う人々の間で、より多くの症例が報告されています。2022年以降、欧米を中心に感染が拡大し、世界保健機関は公衆衛生上の緊急事態を宣言しました。日本国内でも症例が報告されており、感染拡大の推移が注目されています。エムポックスは天然痘と似た病気で、その予防には天然痘ワクチンの使用が認可されています。このような性別や性的指向が影響すると考えられる感染症に対し、どれくらい多くの方がワクチンを受けたいと思っているのでしょうか。

本研究では、2万人以上のアンケートデータを解析しました。その結果、ワクチンを受けたいと回答した人は、男性では約23%、女性では約13%でした。また、性的指向も考慮して分析したところ、同性の相手に性的に惹かれると回答したグループでは、異性の相手に惹かれると回答したグループよりも、ワクチンを受けたい人の割合が高かったことも分かりました。

天然痘ワクチンは、現在、一般的には用いられていません。そのため、ワクチンの効果について信頼できる情報を発信していくことが重要です。また、ワクチン接種に際して、性的マイノリティに対する差別が助長されないように配慮する必要があります。

研究代表者

筑波大学医学医療系

堀 大介 助教

研究の背景

エムポックス（旧称：サル痘）^{注1}は、ウイルス感染によって、発熱や頭痛、リンパ節の腫れ、発疹などを引き起こす病気です。誰でも感染するリスクがありますが、国外で報告されている症例の多くは男性で、特に男性間で性交渉を行う人（MSM；Men who have sex with men）が多いと報告されています。アフリカでは断続的に流行していましたが、2022年5月以降、欧米に感染が拡大し、同年7月、世界保健機関（WHO）が国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態にあると宣言しました（2023年5月に終了宣言）。一方、日本国内では、2023年5月19日時点で149の症例が報告されており、今後の流行の推移が見守られている段階です。

エムポックスそのものに対するワクチンはまだありませんが、天然痘と似た病気であることから、天然痘ワクチンの接種が予防のために有効だと考えられています。日本でも天然痘ワクチンのエムポックスに対する使用が承認されています。このような新興・再興感染症に対するワクチンの受容率^{注2}の把握は、人々がその感染症にどの程度のリスクを感じているかの予測や、ワクチンの普及が必要になった際の啓発活動に役立つなど、感染拡大を抑えるための重要な情報となります。

研究内容と成果

本研究では、「日本における COVID-19 問題による社会・健康格差評価研究（JACSIS）」において、2022年秋に収集された、2万人以上の大規模全国アンケート調査のデータを解析しました。JACSISは、コロナ禍において、健康・医療・働き方・経済などの諸問題がどのように変化したかを調査するために、インターネット調査会社にモニターとして登録されている人々を対象に、2020年に開始された前向きコホート研究^{注3}で、現在も継続して調査が行われています。

今回行った調査では、「サル痘（現：エムポックス）に対する天然痘ワクチンの使用が承認されました。今後、接種の機会があればワクチンを受けたいと思いますか」という質問に対して、「接種したい」、「様子を見てから接種したい」、「接種したくない」の三択で回答を得ました。性別や性的指向によってワクチンの受容率に差があることが国外で報告されていることを踏まえ、出生時の性別（戸籍上や身体の性別）や、性的に惹かれる相手の性別ごとに、回答者を分類して解析しました。ただし、性交渉を行う相手の性別までは調査しておらず、MSMの集団を特定しているわけではない点には注意が必要です。

不自然な回答や欠損値のある回答者を除外したところ、実際の解析対象者の人数は、出生時の性別が男性だったグループが12,168人、女性だったグループが12,775人でした。出生時の性別ごとに見ると、ワクチンを「接種したい」と回答した方の割合は、男性では23.1%、女性では13.4%でした。このことは、一般市民のエムポックスに対するワクチン受容率は決して高くないことを示しています。さらに性的指向によって回答者を分類すると、同性の相手に性的に惹かれると回答したグループでは、異性の相手に性的に惹かれると回答したグループと比べて、ワクチンの受容率が高いことが分かりました（表）。この傾向は、年齢などを調整した多変量解析においても同様に認められました。

今後の展開

天然痘ワクチンの定期接種は、日本では1976年以降、廃止されています。また、新型コロナウイルス感染症の例で見られたように、人々に馴染みのないワクチンには、根拠の乏しい噂もつきまといまいます。従って、ワクチンの有効性に関して、透明性のある情報発信が不可欠です。また、エムポックスに関しては、ワクチン接種の希望者の中に性的マイノリティの割合が高くなることも予想されます。ワクチン接種に関わる専門家は、性的マイノリティに特有の問題についての教育を受け、彼らに対する差別が助長されることのないよう配慮する必要があります。

参考図

表 ワクチンを「接種したい」と回答した者の割合

		性的に惹かれる相手の性別	
		男性	女性
出生時の性別	男性	29.2%	22.7%
	女性	13.2%	18.0%

用語解説

注1) エムボックス (mpox)

従来はサル痘 (monkeypox) と呼ばれていたが、差別的な表現につながったことなどから、世界保健機関がエムボックス (mpox) と名称を変更した。日本では 2023 年 5 月 26 日に名称変更が発表された。

注2) ワクチンの受容率

今回の研究では、どれぐらい多くの方が、エムボックスの予防のために天然痘ワクチンを受けたい、あるいは受けたくないと思っているかを示す。ちなみに、病気を防ぐためのワクチンがすでに存在するにもかかわらず、ワクチン接種をさまざまな理由で避けることはワクチン忌避 (vaccine hesitancy) と呼ばれる。世界保健機関は、世界の健康に対する十の脅威の一つとしてワクチン忌避を挙げている。

注3) 前向きコホート

あらかじめ対象集団を設定し、将来にわたり追跡調査する研究手法。ただし本研究では、一時点のデータのみを解析した。

研究資金

本研究は、科研費 (21H04856、20K19633) 等による研究プロジェクトの一環として実施されました。

掲載論文

【題名】 Sexual orientation was associated with intention to be vaccinated with a smallpox vaccine against mpox: A cross-sectional preliminary survey in Japan.

(性的指向はエムボックスに対する天然痘ワクチンの受容と関連していた：日本における予備的横断調査)

【著者名】 D. Hori, Y. Kaneda, A. Ozaki, and T. Tabuchi

【掲載誌】 *Vaccine*

【掲載日】 2023 年 5 月 24 日

【DOI】 10.1016/j.vaccine.2023.05.050

問い合わせ先

【研究に関すること】

堀 大介 (ほり だいすけ)

筑波大学 医学医療系 助教

URL: <https://trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000004139>

【取材・報道に関すること】

筑波大学広報局

TEL: 029-853-2040

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp